

常陸大宮市教育委員会 10月定例会議事録

- 1 会議の名称 常陸大宮市教育委員会 10月定例会
- 2 開催日 令和4年10月25日(火) 午前10時00分から
午前10時55分まで
- 3 開催場所 常陸大宮市役所 行政委員会室
- 4 出席者
 - (1) 教育長 小野 司寿男
教育長職務代理者 生天目 茂
委員 橋本 勇夫
委員 宮本 亜希子
委員 宮田 則子
 - (2) 事務局及び説明者
教育部長 諸澤 正行
学校教育課長 小泉 博美
生涯学習課長 小室 修
文化スポーツ課長 坪 裕志
指導室長 河野 護
学校教育課課長補佐 青山 正樹
学校教育課主任 野上 幸恵
- 5 報告
報告第27号 教育長報告について
- 6 議案
議案第47号 常陸大宮市社会体育施設条例及び常陸大宮市都市公園条例の一部
を改正する条例の制定依頼について
- 7 協議
協議事項6 常陸大宮市立学校2学期制の導入について
- 8 その他
 - (1) 各課及び教育委員の行事予定について
 - (2) 教育委員会所管事務契約案件報告について
 - (3) その他
- 9 次回の定例会日程について

を結んでおりまして、今年は大宮小の児童10人が夏休みに大館市に行き交流を深めるなど、これまでも様々な活動を行っております。今回は、小中学校の先生方4人と、指導主事1人、そして私の6人での参加でした。向こうでは、総合研究会を中心に、小中学校の授業参観や学校経営の説明などに参加してきました。感想としましては、大館市は十数年前、いわゆる自然消滅都市と言われてきた、大館には何もない、そして大館になんか残らないという若者がほとんどだったという、そういった危機的な地域だったということをお聞きして、その中で教育長さんが取り組んだのは、いわゆるキャリア教育と、それから郷土教育。こちらの常陸大宮市でいう郷育と同じようなもの。それを学校で実施しまして、特に学校の中では、お互いの人間関係、授業を構築するための大きなベースとなる人間関係、特に相手の話を聞くこと。つまり、授業中、色んな発表した子供に対して、無視をしたり、変なからかいや視線を送ったり、そういうことではなくて、小学校1年生のときから、「へー」とか、「ほー」とか、正直な感想を声にして出す、もしくはジェスチャーで示すとか。それに対して、発表した子供が有用感や自尊感情を高める、そういったことを徹底して繰り返してきたということでございます。最初は授業を見て、非常に違和感を感じて、何だこの子供達はと思ったんですが。誰かが発表すると、「へー」とか「ほー」とか言うんですよ。授業中でも。何だ？と思ったんですが。それがいつの間にか、学年が上がっていくと当たり前になりまして、発表する人間は言わない方が損だっというか、自分の意見というのは、ちゃんと相手に分かってもらわなければ、決して良いことはないってことを、授業の中の全てで体感していく。それで、先生がそのことに対して非常に楽しそうに、教員自身が自信にあふれていました。楽しそうに子供達にそれを返して、あっちの教室でもこっちの教室でも「わはは」「おほほ」と、本当に。生きた授業というのを久しぶりに拝見した気がしました。これは中学校まで続きます。中学校は、こうやって6年間鍛えられた子供達が上がりまして、思春期は

どこに行っちゃったんだって思うほど、机をきっちりくっつけて、男女が顔を近づけながら、色んな問題に関して、問題解決に対して、色んな話し合いをして、それを授業の中で発表したり、いわゆる学び合いの徹底的なルールの中に、きちんと自分達のをやると。先生はそれに対して、非常に効果的に作られた板書をしながら、子供達にそれを返していくと。ですから、一方通行の授業なんかひとつもなくてですね、最初の導入から最後のまとめまで、全て子供達が自分で発表した、子供達の言葉で、授業が成り立っていました。本当に素晴らしい授業で、特に中学生であれだけのものができるというのは、素晴らしいなど。

結局、そういうことを繰り返して、高校に進学する。大館市には高校はいくつかあるんですが、私立高校はないそうです。それで、十数年前は、高校を卒業した子供達が地元就職する人数の割合が20パーセント程度だったのが、今年アンケートで80パーセントだったと。十数年間で60パーセントも伸ばしたと。要するに、大館が好きで、大館が面白いから大館に住むんだということで、13年後の今年が、この事業を続けて初めて高校生が卒業する年なんだそうです。どういう企業に就職するかということ非常に楽しみにしているということなんです。これを支えるのもう1つ、市全体がいわゆる学校教育に協力するというか。子供ハローワークという制度がありまして、いわゆる職場体験です。ただ、やり方が違ってですね、小学校、中学校の9年間の間に、事業所が何百も開発されていて、それを教育委員会が管轄して、学校には一切負担をかけないんです。それで、子供ハローワークを運営している教育委員会が、それぞれの学校に、こういう事業所がこんな職種を求めていますよ、というのを学校に配る訳です。そうすると、幼稚園がこういうのを要求していますよとか、どこどこの魚屋さんがこんな手伝いをしてくれる人を要求していますよとか。それを子供達は見て、自分で申し込んで行く訳です。ですから、何年も幼稚園の手伝いを続けている女の子とか、それから、車が好きで、車屋さんの修理工場に入って、最後には、「お

前はここの跡を取るんだ」と、他の家の子供なんですけど、そう言われている子供ですとか。トータルで、年間に延べ2,000件。2,000回は、職場体験を行うと。小学校中学年から中学3年生までです。これは、学校も希望を出して、山間部の方の小さな小学校が、「運動会の準備で先生方の手が足りないので助けてくれないか」ってハローワークに出すと、中学生が「はい」「はい」って、それに協力してくれる子が自転車でやってきて運動会の準備をしてくれる、というような。こうやって、いわゆる郷土教育とキャリア教育を結びつけることによって、そこにいる人、要するに同級生とか、おじさんとか、周りの人達を好きになって、自分がこの市を好きだと、本来の郷土教育がなされて、大館という市から人が流出していかなくなったと。そういうものを13年の間に成功させた。そういうことでした。

最後にびっくりしたのは、これは教育委員会の仕事ではなくて、市の総合政策なんだと。ふるさとを愛する人間を育てるというのが、教育が市の大事な施策に変わっていったという。教育長さんからしてみれば、教育はやっぱり全てのもとだということを実現したという、そういったことでございました。

じゃあ、遠くから来た人にだけ子供達もうまくパフォーマンスやっているんじゃないかっていうのがありますので、私早起きして、近くの鳳鳴高校っていう知っている進学校があるので、そこの野球部の室内練習場が見たかったので、朝早く歩いて行ったら、途中で城南小学校っていう、その研究授業を発表してくれる学校があったんです。で、前から子供達が歩いて来るんですね。どういう対応するかと思っていたら、本当に1人残らず「おはようございます」と声をかけてくる訳です。で、「おじちゃん、今日午後からみんなの学校に行くんだけど」って言うと、「へー。どこから来たの?」「茨城」「ああ。茨城」って、知っているんですよ。「大館って茨城県のどこかと仲良いんだよね」「そうなの。よく知っているね」もともと地名が佐竹氏が連れて行った地名があるんですが、そういう話か

らして、みんな挨拶をしてくれて。で、集団登校ではないので、子供達が三々五々に集まっては学校に向かって行く訳です。1人ぽつんと来る子もいるんだけど、どこかで友達が出て来て、2人になったりする様子もありました。4年生か5年生だったのかな。最後には、「僕達は午後の授業がないから、今日は給食食べたら帰るんだ」って言うんですよ。「良かったね。じゃあ、毎日研究授業だっていいんじゃないの」って言ったら、「嫌だよ、そんなの。学校楽しいのに、半日で帰らなきゃいけないんだから」って。「ええっ」と思って。これ本当にこの子供達は学校が楽しいんだなって。もちろん、不登校もいるし、色んな学校の問題はあるんですけども、でも、基本的にああいう生きた授業がなされていて、そして、子供と先生の関係が本当に楽しい毎時間を過ごして、そして、周りの大人達がいつも支援することができる市っていうのは本当にあるんだということを体感しました。本当にびっくりしました。ぜひ大宮も、学力向上と同時に郷育ということで、大館のしていることとはニュアンスは違いますが、できることは真似をしてやっていきたいなど。

最後にびっくりしたのは、教育長の話で、一番心配だったのは、いわゆる学力だと。その点数を取らせるための施策ってものを何もしないんだけど。秋田はご存じのとおり、全国でいつも1、2を争う、学力の高いところ。秋田市はそのためにもものすごいことやっているんだそうです。でも、大館はそんなことやらない。でも、子供達のアンケートを取ると、いわゆる職場体験をやってきた中学生なんかが、何を最初に答えるかという、「もっと勉強しなきゃだめだ」って言うんだそうです。要するに、社会で働いている人達と関わることによって、世の中の厳しさとか生きることの大変さをちゃんと教わり、そしてその中で、大事なのはやっぱり勉強することだ、学ぶことだということを、本当に心から身に付けるというか。ですから、本来の教育というものの自然な流れはそこにあるなということで。こういう素晴らしい、参考になる市があるので、教育長さんに、

「これからも大宮をよろしくお願ひします」とお願ひしたら、「いつでもどうぞ」っていうふうに言ってくださいましたので。長い付き合いがあるということで、これからも、ぜひ、大館の良いところを参考にしながら進めていきたいと思っています。

それから2点目に、22日土曜日に、5月に運動会を行わなかった、大宮西小、緒川小、御前山小の3校が運動会を行いました。天候にも恵まれ、暑くなく、やっぱり秋の運動会ってまた春と違った趣がありまして、低学年が成長しているとか、真っ直ぐ走れるようになってきているとか。それから、高学年も人間関係ができあがっているので、色んなことの活動がスムーズに、あまり長い時間練習ができなくても、応援合戦にしても、集団の競技にしても、非常にスムーズにいくという、そういうメリットがあるんだなということを感じた運動会でした。とにかく、校長先生方をはじめとする先生方の笑顔と、子供達が非常に楽しそうにやっている様子で。緒川小は小さな学校で、保護者の方が児童より多いくらいなんです。でも、みんな競技に入っていて、いつもみんなが一緒に手を繋いで走っているんです。本当に良い運動会ができるんだなということを見させていただいて、感動しました。

これから文化祭なども実施する中学校もありますが、お手元にありますように、県大会の出場校、今日から試合が始まっております。大宮中が、バレー、ソフトボール、卓球の個人・団体。それから、二中が野球と卓球の個人・団体。山方中が剣道の個人、そして、明峰中が野球と卓球の個人・団体。野球、それから卓球、この辺は大宮、戦力が少ないところでこれだけの結果を残しているということで、子供達非常に大したものだなと思います。これからそういった形で、中学校等色々あるんですが、感染対策、まだ全く安心できませんので、そういったものを十分に行いながら、行事を実施していこうと思っております。これに加えて、例えば北小の文化祭は今度の土曜日です。それから11月12日の土曜日には、県

の歴史館で全県の伝承文化を公開する催しがあるそうで、その中で北小の子供歌舞伎が選ばれて実演するということでした。それから大賀小では、11月18日に、かわプラザで、さつまいもをたくさん作ったのでそれを販売するというのも行いますし、今日はパラオとの交流ということで、本当はパラオの大使の方がいらっしゃることになっていたんですけど、色々と都合が悪くなって、来れなくなって、ジャイカツくばの所長と、それからNHKが来て、11時過ぎからパラオとオンラインの交流をするところを取材してくれるということです。

コロナに関しましては、お配りしているとおりでございまして、全体で60人と、まだ決してなくなっている訳ではなくてですね、でも、先月140人でしたので、80人の減ということで、かなり少なくなっております。これからも気を緩めずに、警戒をしながら進めていきたいと思っております。

私の方からの報告は以上でございます。すみません長くなりました。

何かご質問等があればお願いします。

よろしいでしょうか。

大館に関しましては、また後ほど、今度研修に行く機会もありますので、その時にでも改めて色々とお話できればと思います。

それでは、続きまして、「日程3 議案」に入ります。

議案第47号 常陸大宮市社会体育施設条例及び常陸大宮市都市公園条例の一部を改正する条例の制定依頼についてを議題とします。事務局の説明をお願いします。

坏文化スポーツ課長 【議案第47号について提案・説明】

小野教育長 説明が終わりました。質問があればお願いいたします。

資料が大量で長くて大変だと思うのですが、質問がありましたら。

課長、この改定料金というのは、他の市町村から見ると、普通くらいなんではないですか。安いんでしょうか。

坏文化スポーツ課長 若干、安いぐらいです。もともとベースが安いので、過度な値

上げは控えている状態です。

小野教育長 分かりました。

何かございますか。よろしいですか。

それでは、無いようですので採決に移ります。議案第47号につきましては、原案のとおり可決することよろしいでしょうか。

各委員 <異議なし>

小野教育長 異議なしと認め、議案第47号につきましては、原案のとおり可決いたします。

以上で議案が終了いたしました。

続きまして、「日程4 協議」に移ります。

協議事項6 常陸大宮市立学校2学期制の導入についてを議題とします。事務局の説明をお願いします。

小泉学校教育課長 【協議事項6について説明】

河野指導室長 【協議事項6について説明】

小野教育長 ありがとうございます。協議事項について説明が終わりました。ご意見、質問等をお願いいたします。

今まで、7月21日から8月31日までだったものを、3日間加えることによって、7月24日から8月31日までにするということなんです。

橋本委員 何度か話し合っている中でなんですけど、7月中の時間を、授業日に延ばすっていうのと、8月下旬を授業日にするって話が色んな地区で出ているんですが、8月下旬よりは、7月下旬を延ばした方が。全体的な流れが。あとは、非常に最近暑くなってきているんですけど、各教室エアコンが入っているということで、かなり軽減されるのかなと思うので。

小野教育長 はい。ありがとうございます。その他いかがでしょう。

生天目委員 私もね、28コマでやるっていうときには、この案以外には考えられな

いかなって感じがしますね。提案すると苦しいところもあると思うんですけど、現状はこれでやるしかないんじゃないかな。夏休みについては問題ないと思います。それから、前期後期についても、後で長く考えたけど、これでやるしかないかもしれないね。この提案どおりで良いような気がしています。

小野教育長 はい。ありがとうございました。宮本委員いかがでしょうか。

宮本委員 はい。私も、夏休みに関しては、7月の部分を長くして、8月は丸々休んだ方がいいかなと。ちょっと周りの保護者の何人かにも聞いたんですが、「水戸の学校の方では、8月最後の週から出てるよね。あれだったら、8月いっぱい休みの方が良いよね」という意見をけっこう聞いているので、これに関しては良いと思います。ただ、私、前期後期の期間を、この1か月考えたんですが、茨城県の県立高校は9月いっぱい、10月から始まっているので、やっぱりこの前、生天目先生がおっしゃった「子供達の視点を」ところで考えると、そのままスムーズに後期に行くのであれば、もし学校の方で特に問題がないのであれば、私は、9月終わりにして、10月1日から始まった方が、そのまま子供達もスムーズに後期に行けるのではないかなと思いました。

小野教育長 はい。ありがとうございます。宮田委員いかがでしょうか。

宮田委員 はい。非常に色々なアイデアをお考えいただいていると思うんです。ですから、周りの情勢も考えて、こういう方法で2学期制の導入がスムーズに行くかと思うんですが、ただ、1つ、7月の夏季休業をちょっと遅くしたことで、先ほど教育長のお話の中に、各学年が、学年ごとの充実感がある秋運動会というお話がありましたけど、どの学年も1学期、とてもよくできた中で、それで夏休みにすぽっと入る訳ですよ。そうすると、9月1日というのは、特に低学年なんかは、家庭生活から学校生活への切り替えがなかなかスムーズにいかない部分もあるので、そういう意味では、月の終わり、そして、9月1日から、前期としてはスムーズにやっていく、そして今度は、前期と後期の間ですね。これが何か、

長期の休みじゃないから、すぼっと、うまく後期にうつれるような気がするんです。ですから、月曜日の次の日から後期ってということで、何かこう、感覚的には月の中途っていう感じがありますけど、子供達の学校生活を考えると、ここは非常にどこからやってもスムーズにいくんじゃないかなと。そんな気がいたします。以上です。

小野教育長 はい。ありがとうございました。

学校生活考えると、学期の変わり目とか、休みの空け方っていうのは、指導の方法の1つもあるなって私感じる場所があります。要するに意識付けというか、創立記念日と同じで、ここまでが休み、ここまでが授業日というふうに。そうすると、そのことを担任が丁寧に子供達に意識化させるってことは、学校教育の中の大事な1つのような気がするんですよ。それは教員の方の意識をきちっと持ってもらうのが大事かなってことと同時に、実際にどうだったんだろうということ、実は、ある学校が2学期制になったときに、昔聞いてみたことがあったんです。そしたら、「子供らどうなの？夏休みが終わってから2学期が始まるんじゃないくて、ずっと1か月ひっぱってから、前期終わって後期だよっていうのはどうなの？」って。「全然何も関係ないけど」。こっちが予想していたのは何も起こらずに、子供達は平気でそのまま「はいはい」って行っちゃったって。要するに、そういうもんなんだなということ。これは実際どうなるかはやってみないと分からないんですけど、さっき言った指導っていうのは、そういうときに非常に大事になってくることなんだと思うんです。こういうものなんだっていうことを先生方が説明していただくといいかな。そういうことを気を付けながら進めていければ良いのではないかって思いますので。

橋本委員 すみません。ちょっといいですか。

小野教育長 はい。どうぞ。

橋本委員 私も、前期後期では、前、室長ともちょっと話したんですけど、まず高校

では、私の経験からすると、9月の下旬に3日間、期間休みっていうのがいつもあったんです。2、3日。それで切り替えをしていたんです。曜日関係なく。ですから、授業確保ということでこれを手立てをしているのに、9月10月にそれを休みにはできないのが現実ですよ。もう1点は、出席簿をつけるときに、9月終わって、10月の半分で、ここで切るよっていうふうな事務手続きがどうなのかなって思っていたんです。それと、もう1つは、3日間自動的に取れるっていうことの切り替えのタイミングは良いと思ったんですが、今、教育長が言われるように、子供達は今日と明日の学期の差なんていうのは、ほとんど意識していない。今までだって、始業式とか終業式があったから、夏休みだっていうので切り替えていたんです。だから、9月と10月で切り替えたって、そんなに問題になるようなことはないとも思っているんです。ですから、学期の切り替えについても、先生方の事務手続きが軽減することからするとどうなのかなっていうのは、未だに残ってはいます。その辺はどうなんですかね。

小野教育長 はい。では、室長お願いします。

河野指導室長 まず、事務手続きのところ、出席に関してなんですけれども、先行している市町村に確認したら、前期は9月までの出席で出すそうです。というのは、10月を作ると、前期10月、後期10月って、2枠で作って出すっていう、事務的に不具合もあるので、9月までで。現在のところ、通信票って印刷したものをファイルに挟んで出す学校が多いので、最終日の日に、見込みで「出席」で準備しているんですけど、最終日で見込みで「出席」なのに、「欠席」しちゃうと、結局それを破棄してまた「欠席」で作り直すっていう手間もあつたりするので、9月で締めるのがちょうどいいっていうご意見もいただいているので、本市もそれに倣っていこうと思っています。今、校務システムの中でやっていますので、通信票もこちらで一括して作ることもなっています。そういう手続き上もあつて、余計な欄は作らずにやっていった方が通信票もすっきりしていいっていう意

見もいただいておりますので、そういう形で進めていこうと思っています。以上です。

橋本委員 ありがとうございます。

小野教育長 よろしいでしょうか。

橋本委員 はい。

小野教育長 それでは、本件につきましては、前期は4月1日から10月の第2月曜日まで、後期は10月の第2月曜日の翌日から3月31日まで。そして、夏季休業は7月24日から、8月31日までにしたと思いますので、よろしく願いいたします。

続きまして、「日程5 その他」に移ります。

(1) 各課及び教育委員の行事予定について、事務局の説明をお願いします。

小泉学校教育課長 外 [行事予定説明]

小泉学校教育課長 [教育委員の予定説明]

小野教育長 ただいまの件について、質問があればお願いいたします。

橋本委員 質問ではないんですけど、委員さんにこれを分かってもらうのに、良いですか。

小野教育長 はい。どうぞ。

橋本委員 実は、先ほど坪課長の方から話があったと思うんですが、20日の陸上競技会なんですけど、昨年、小学生の音楽会と陸上競技会がなくなったんですよね。結構批判等が去年はあったんですが、それを受けて、体協の方とか、文化スポーツ課の皆さんに協力していただいて、何とかできればってことで、準備をたくさん進めてきてもらって来ました。で、何とかできるような方向になってますので、報告させていただこうと思います。大変お世話になってます。

小野教育長 ありがとうございます。それでは、質問等ないようですので、(2) 教育委員会所管事務契約案件報告について、事務局の説明をお願いします。

小泉学校教育課長 [契約案件について説明]

小室生涯学習課課長 [契約案件について説明]

小野教育長 ただいまの件について、質問があればお願いいたします。

では、ないようですので、(3) その他について、事務局又は委員の皆様から何かありましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。

では、ないようですので、続きまして「日程6 次回の定例会の日程について」、事務局からお願いいたします。

小泉学校教育課長 (11月定例会について日程調整)

小野教育長 それでは、11月定例会については令和4年11月25日金曜日、午前10時より開催することによろしいでしょうか。

以上をもちまして、常陸大宮市教育委員会10月定例会を閉会いたします。

(閉会：午前10時55分)